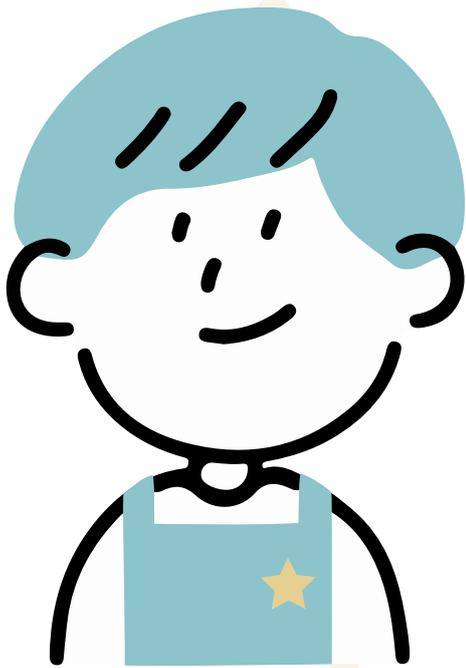


Welcome back to 保育

子ども達と一緒に
遊びたい！！
でも働く時間は？



保育職に戻りたい。
でもブランクが…

今の保育は
どうなっているの？



保育職への復職。
その実際は？

はじめに

保育から離れていたけれど、やはり保育に戻ろうかと悩んでいる皆さんは、「保育に戻ろうかな、でもブランクが長く何か不安だな」、「今の保育ってどうなっているのかな」、など復帰に対して何かしらの不安があるのではないかと思います。

そこで、保育者養成校として皆さんのそのような悩みの解消に役立つような情報提供をすることで、保育者復帰の手伝いをしたいと考えリーフレットを作成しました。

【内容】

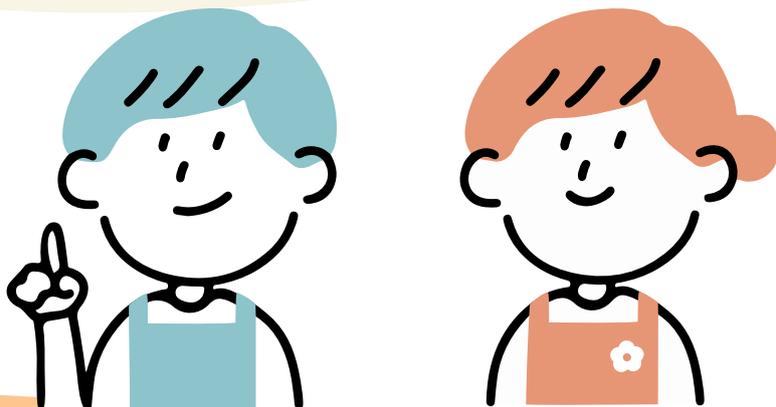
「1. 今の保育について」

今の保育で大事にしていること、保育者としてのキャリアパスについて、変化著しいICTの活用、多様な働き方などについて復職に向けて知っておくと役に立つ情報をお伝えします。

「2. 保育者に復帰した方（30代、40代、50代）の体験談」

保育から離れた理由から戻るまでをアンケート形式でうかがっています。

以上の内容が、皆様の現場復帰に役立つことを願っています。ご自身のペースで無理なく復帰を目指しましょう。



1. 今の保育について



(1) 今の保育で大事にしていること

- ・ 子どもの主体性を育む→子どもが自分で考え、選択し、行動することを育てます。
- ・ 多様性の尊重→子ども一人ひとりの背景の違いや育ちの個人差を受け入れ尊重します。
- ・ 保護者支援→保護者との信頼関係を築き、共に子育てに向き合えるように支援します。

(2) キャリアパスの明確化

個人の希望や関心、経験によって異なりますが保育者としての知識やスキルを深められる研修などに参加し、専門職としてのキャリアを形成していくことができます。



(3) 保育ICTの活用

多くの園では、保育ICTを導入し業務負担の軽減や保護者とのコミュニケーション強化に使われています。

(4) 多様な働き方

フルタイムで働くだけでなく、自分のライフスタイルに合わせた働き方ができます。

～保育に復帰した体験談から～

Aさん (30代) 保育所型認定こども園 正職

Bさん (40代) 児童福祉施設 夜間パート

Cさん (40代) 幼保連携型認定こども園 正職

Dさん (50代) 預かり保育担当 (午後～夕方)



2. 保育に復帰した体験談

質問内容/回答者	Aさん (30代)	Bさん (40代)	Cさん (40代)	Dさん (50代)
Q1. 退職理由	自由に自分の時間を持ちたいと思ったからです。	他の職業を経験したかったからです。	新しいことに挑戦するため。	結婚。疲れ果てて辞めたかった。
Q2. 保育現場を離れていた時にどのような活動をされていたか	自分の行きたい所に行きたい時に行ったり、自分の時間をゆっくり過ごした。	保育職以外の仕事をした後、結婚し家事に専念していました。	新しい仕事に就くために、学校に通い、その後は保育以外の仕事をしていた。	旅行をした。保育以外の仕事をした。
Q3. 保育以外の仕事と保育職の違い	未回答	保育職の時は毎日わくわくドキドキでした。私は事務職でしたので、まったく逆の淡々とした日々になりました。当時は定時の帰宅や、土日祝の休みが増えたと感じていました。また、出勤時間以外はまったく仕事のことを考えなくなり、寂しさもありましたが、精神的なゆとりが増えたように感じていました。	仕事とプライベートがしっかり区別されていること。	一般職は勤務時間や有給等が守られ、労働条件が整っていた。決まった仕事を淡々とこなせばいいだけのことが多く、気は楽だった。新しい職種は新鮮さもあり、楽しいこともあったがやりがいは感じられなかった。
Q4. 保育に戻る要因	自分の時間をしっかり取れたので。	友人に仕事を紹介してもらいました。	幼稚園教諭の免許更新、現場復帰のお誘いをいただいたこと。	子育てを経て、仕事をしようと思ったときに、新たな仕事を覚える自信がなかった。近所に条件のあう幼稚園があったため。
Q5. 保育者に復帰して改めて感じる保育職の魅力とは	大変なこともありますが、毎日刺激的で子どもたちから元気を貰って過ごすことができていること。	子どもたちと接する時間は、やはり可愛いなあと感じています。何気ない会話や笑顔を共有できる時間が尊いものだなあと思うことです。	常に学びの場において、やりがいを感じる。	子どもの成長した姿をみられること。子ども、保護者、職場の仲間等から感謝の気持ちを伝えられることも多く、大変なことも多いが、達成感を味わえる。

アンケートから、退職した理由は様々ですが、他の仕事を経験したうえで新たに保育のやりがいや子どもと過ごす楽しさを感じているようです。つまり、**保育現場を離れていたことは、専門職としてマイナスの要素にはならないようです。**

